

ふくし

11 月号



愛ちゃんと希望くん ©中央共同募金会

とちぎ

November 2020 No. 493

- 発行/社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
〒320-8508 宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内
TEL 028(622)0524/FAX 028(621)5298
- 編集・デザイン/藤崎印刷株式会社
- 発行日/令和2年11月10日
- ホームページ/<http://www.tochigikenshakyo.jp/>



コロナウイルス感染症に留意し、園外活動（川遊び）を楽しむ、つた保育園の園児たち

も く じ	特集1 「スポーツの祭典を支えるボランティア」	2
	特集2 「社会福祉法人のコロナ禍の取り組み」	6
	第26回栃木県民福祉のつどいを開催	10
	社会福祉に関する要望	11
	栃の実基金助成事業	10
	とちぎ福祉プラザからのお知らせ	12
	福祉人材・研修センターからのお知らせ	12



この広報紙は、赤い羽根共同募金の助成により発行しています。

「ふくしとちぎ」の1面を飾る写真を読者の皆様から募ります。テーマは「福祉」に関するものです。とっておきの1枚をぜひお寄せください。

● 社会福祉法人京福会 寿山荘那須（那須町）

手づくり感溢れる催しが好評。

職員のモチベーションもアップ

主任介護職員・高橋裕也さん／生活相談員・人見達哉さん

Q コロナ感染症を心配し始めた時期は？

当法人は那須塩原市・大田原市・那須町にある9つの拠点で特別養護老人ホームなどを運営しています。新型コロナに罹患すると重症化リスクの高い高齢者をお預かりしていることから、2月から面会制限を行い、シヨートステイ利用者には在宅と施設の行き来を制限するため、長期利用を提案しました。

Q 延期や中止になった出来事は？

利用者の外出を制限し、月1回の散髪を取り止め、通院も薬だけの処方での済む場合は取り止めました。他にも毎月行っていたクラブ活動を中止しました。ボランティアの方々を迎え、カラオケを始め趣味を楽しむ場でしたが、感染症予防のため部外者の出入りを禁止せざるを得ませんでした。

また、花見や納涼祭、敬老会などのイベントは開催規模を見直し、ユニット単位で実施するようになりました。

Q コロナ禍で新たに始めたことは？

利用者のご家族の面会が制限される中、コミュニケーションを促す手段としてタブレット端末を購入し、LINEのビデオ通話でオンライン面会を始めました。コロナ禍で帰省できないご家族



▲ オンライン面会の様子（写真提供／京福会）



▶ 納涼祭で手持ち花火を楽しむ利用者（写真提供／京福会）



◀ 施設の庭で芋掘りに汗を流す利用者（写真提供／京福会）

は、画面を通してコミュニケーションが図れます。遠方で暮らすご兄弟やお孫さんなども気軽に参加できることから「久しぶりに顔を見ることができて安心しました」と好評です。

法人でのブログ発信と合わせ、今後の予定としてタイムLINEを利用し、施設内の活動やイベントなどをリアルタイムにご家庭に発信できればと思っています。

Q コロナ禍で気づいたこと、学んだことは？

恒例の納涼祭は中止の予定でしたが、感染症対策に注意を払い、開催規模を見直し、出し物を変更するなど工夫して開催しました。

例えば、花火師による打ち上げ花火から手持ち花火に切り換えるなど、これまでのやり方をガラリと変えました。手持ち花火を楽しんだ利用者からは「なつかしい」「昔を思い出した」など好評を博し、手づくり感満載の催しでもよるこんでもらえたことは大きな収穫でした。

一方、企画から携わることで職員のモチベーションが向上し、達成感や充実感を味わえました。今後はこのような経験を、利用者サービスの向上につなげていきたいと思っています。



▲ (左)主任介護職員・ユニットリーダーの高橋裕也さん (右)生活相談員の人見達哉さん